

フキノトウ専用品種 ‘春音’ の効率的増殖法

岡部和広

(山形県最上総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室)

Methods for Efficient Propagation of Japanese Butterbur Cultivar “Haruoto” for Harvesting Spike

Kazuhiro OKABE

(Yamagata Mogami Agricultural Technique Improvement Research Office)

1 はじめに

フキノトウは認知度の高い山菜で、首都圏を中心に1～3月の需要が高いことから、山形県では市場性の高い専用品種 ‘春音’ を開発してきた¹⁾。これまでは地下茎を9cmポリポットに鉢上げして苗を作り、1年間圃場で養成した株を秋に掘り上げ、1月からハウスに置いて促成する栽培体系を構築してきた。しかし、10aあたり約4000個の養成株が必要な一方で、増殖率は約30倍と低く、普及には大量の苗とコスト削減が必要であった。そこで、栽培希望者へ速やかに親株を供給できる体制づくりと、生産者自らが増殖・育苗しやすい技術を提供するため、効率的な増殖法を検討した。

2 試験方法

【試験1】利用部位が収量に及ぼす影響

前年に養成した ‘春音’ の株を雪中に貯蔵し、2008年2月から順次掘り出した。根を7cmに調製して、2月23日、3月19日に約20℃で出芽処理し、順次9cmポリポットに鉢上げして育苗した。対照は4月2日に地下茎を7cmに調製し、同様に処理した。栽植距離は畝間1.5m、株間0.3m、2条千鳥植えとし、黒マルチを設置してから6月4日に定植した。なお、2月23日の区のみ5月19日にも定植し、各区10株を調査した。施肥は10aあたり窒素成分で10kgを全量基肥でマルチ内に施用した。11月に株を掘り上げて雪中に貯蔵し、3月9日に取り出して最低気温10℃で促成した。

【試験2】根の長さ、処理時期が出芽に及ぼす影響

2月23日に1cm間隔で7cmまで調製した根を各100本供試した。また、2月26日、3月19日、4月2日に3cm、6cmに調製した根を72穴セルトレーに最大4本根挿しし、最低温度10℃のハウスで管理した。

【試験3】セル苗の収量とコスト

2010年2月25日に6cmに調製した根を72穴セルトレ

ーに2本挿しし、5月14日に定植した。対照は4月1日に出芽処理した地下茎ポット苗とした。

3 試験結果及び考察

(1) 利用部位が収量に及ぼす影響

掘り上げ時における根を利用した区の生育は、出芽時期を前進化させたり、定植時期を早めたりしても慣行の地下茎区よりも劣り、促成収量も15%程度低かった(表1)。しかし、育苗に利用できる部位は根が圧倒的に多いため(図1)、苗数が多い本作型では、根を使った育苗法を検討する必要があると考えられた。

(2) 根の長さ、処理時期が出芽に及ぼす影響

根が長いほど出芽が優れ、3cm以上あれば約50%、6cm以上あれば約70%の成苗率が期待できると考えられた(図2)。そこで時期をかねて3cm、6cmの根を複数本セルに挿したところ、早く根挿しすると出芽が早く、成苗率が高まると考えられた(図3)。特に6cmの2本挿しは90%以上と高かった。

(3) セル苗の収量とコスト

根セル区は慣行地下茎ポット区よりも株重がやや低いものの、商品収量はほぼ同等だった(表2)。全収量はポット区がやや多かったものの、2L超の規格外が多くなったため(データ略)、L～Sサイズが少なかった。根を利用したセル苗は(図4)、資材コストが低く、育苗面積も少なく集約的に管理できるため(表3)、低コストで省力的に育苗できると考えられた。

4 まとめ

フキノトウ専用品種 ‘春音’ は、2月下旬頃に根を6cmに調製し、72穴セルトレーに2本ずつ根挿しすると、効率的に増殖できると考えられた。

引用文献

- 1) 岡部和広. 2011. フキノトウ新品種 ‘春音’ の育成とその特性. 東北農業研究. 64: 127–128.

表 1 増殖に利用する部位と出芽開始時期が生育および収量に及ぼす影響

定植日・区	6月4日 生育			11月14日 株掘り上げ時			3月10～14日 株あたり促成収量			
	葉数	葉柄長	葉幅	株重	地下部直径(cm)		フキハトウ数		商品	
	(枚)	(cm)	(cm)	(g)	たて	よこ	(個)		重量(g)	個数(個)
6月4日定植										
4/2地下茎区	3.7	9.1	12.4	897.1	79.4	63.5	11.8		52.8	7.5
3/19根区	7.6	6.2	8.4	819.6	65.3	48.8	8.9		44.5	7.0
2/23根区	9.6	8.2	9.3	670.8	71.3	49.1	11.3		44.9	8.1
5月19日定植										
2/23根区	7.8	11.4	15.5	794.1	69.0	53.7	9.8		46.1	7.6
									13.2	2.1

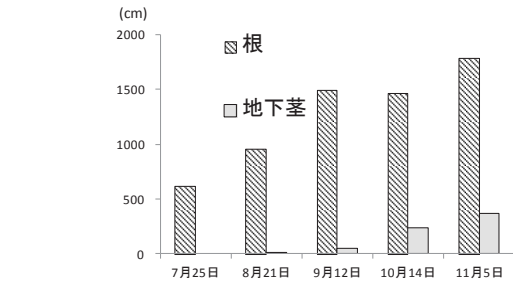


図 1 増殖に利用できる部位の総全長 (2/23 根区 n=5)

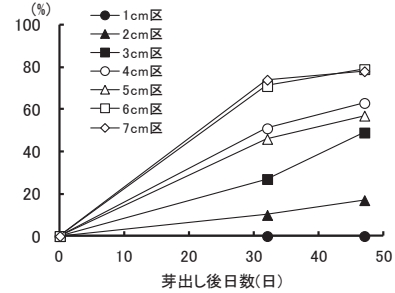


図 2 根の長さが出芽率に及ぼす影響

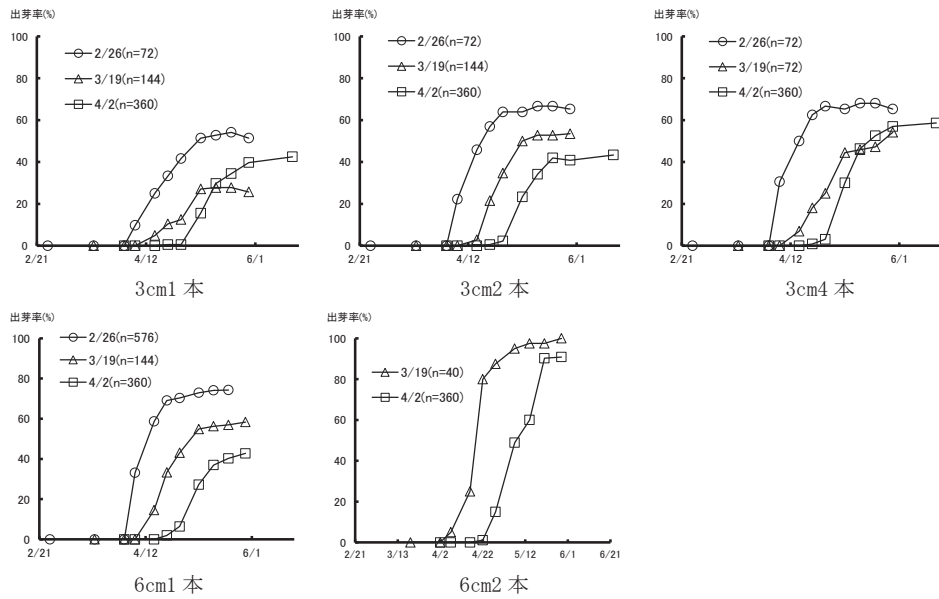


図 3 長さ別の根挿し本数と時期が出芽率に及ぼす影響

表 2 10 a あたり収量

20 株 2 反復調査

区	株重量 (g/株)	商品		うちL～S	
		重量(kg)	個数(千個)	重量(kg)	個数(千個)
地下茎ポット区	951.9	154.1	22.2	91.0	11.4
根72穴セル区	844.2	150.3	23.5	106.3	13.7

z: 20g > 2L ≥ 15g > L ≥ 11g > M ≥ 7.5g > S ≥ 4.5g とする

表 3 育苗コストの試算 (5000 個あたり)

育苗法	栽植距離	栽植密度 (株/10a)	成苗率 (%)	培養土 (L)	育苗資材額 (円)	対照比 (%)	育苗面 積(m ²)	対照比 (%)
地下茎9cmポット(対照)	1.5m×0.3m	4444	95	1169	34,237	100	47	100
根72穴セルトレー	2条		80	389	24,421	71	14	30

z: 培養土、ポリポット、セルトレー



図 4 根挿し増殖で
得られたセル苗